

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1293000038		
法人名	株式会社 オールプロジェクト		
事業所名	つばさグループホーム ふくふく		
所在地	千葉県君津市貞元459番地		
自己評価作成日	平成27年1月22日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者様の笑顔を大切に、その方が過ごしてきた生活スタイルを大事に、個々のペースに合わせ生活して頂けるような支援を心掛けています。</p>

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「つばさグループホームふくふく」は、和を基調とした施設となっており、温もりのある落ち着いた雰囲気となっている。併設施設には、デイサービスがある他、グループ法人の特別養護老人ホームが近隣にあり、合同行事での交流や入居者のニーズに合わせた柔軟なサービスの提供に向けた連携を図っている。また、地域行事に職員が参加するよう努め、地域との関わりを深めると共に、法人の行事に地域住民を招待する等、地域との交流を積極的に行っている。その他にも、職員のスキルアップ及び資格取得の奨励を行っており、外部研修への参加等を積極的に促し、適切な人材育成に取り組んでいる。</p>
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム		
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8		
訪問調査日	平成27年2月10日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月実施されるグループ内でのミーティング時に基本方針や理念の復唱を行っている。	「笑顔と心遣いを大切にします」という理念を掲げており、施設の入り口やパンフレット等に明文化している。新任職員採用時や会議等を活用して、理念・職員倫理等を周知し、適切な施設運営に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事には毎回、複数の職員が参加。地域の祭礼見学等出掛けている。自治会加入には至っていない。	地域住民に対し、挨拶・声掛け・見学及び相談の受け入れ等を日頃から行うと共に、地域行事の参加や施設行事への招待を通じて、交流を図っている。また、地域の子育て支援センターの行事に参加する等、児童との世代間交流も図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	君津市生活介護支援サポーター養成事業、認知症キャラバンメイト講師、認知症メモリーウォークに協力しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動内容や状況等を報告している。意見やアドバイスを頂き改善に努めている。	運営推進会議は、3か月に1回開催しており、民生委員・市職員・入居者・家族等が出席している。会議では、施設活動報告や意見・情報交換を行い、施設理解の促進及びサービスの質の向上に繋げている。また、避難訓練の報告や施設の災害対策状況を説明する等、協力の呼びかけを行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に出席して頂き、ホームの実情をお伝えしながらアドバイスを頂き、サービス向上に努めている。	日頃から業務における相談や報告を行うと共に、運営推進会議への出席を通じて、市職員との連携を図っている。また、市の委託により法人が生活支援サポーター研修を実施しており、市との協働体制を構築している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除の研修を行い、拘束せずに済む介護についての理解を深める努力を行っている。施錠は行っているが、生命の安全を第一とし、ご家族へも説明し、ご理解を頂いている。	身体拘束排除におけるマニュアル整備を行うと共に、会議を活用して、身体拘束排除における意義を職員へ周知している。困難事例においても、職員間で情報共有・検討を行い、適切なケアに向け取り組んでいる。	

【千葉県】グループホームふくふく

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	グループ内ミーティングの研修プログラムに組み込まれており、虐待防止について学び、実践している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間研修プログラムに組み込まれており、管理者・職員共に学び理解を深め、支援できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書の説明を行い、その場で不安に感じている点についてお答えし、ご理解頂くと共に、ご納得頂いて署名・捺印いただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	本社・ホーム共に窓口を設けている。利用者様お一人おひとりに担当職員がおり、ご家族への報告や要望をリーダーに報告する等、日頃から心掛けている。	家族の訪問時や電話連絡時等を活用して、意見・要望を確認している。運営推進会議に家族が出席した際には、意見・要望が言い易いように工夫をしている。また、定期的に手紙等で入居者の近況を報告し、家族との信頼関係構築に努めている。挙げた意見・要望においては、会議・連絡帳・申し送りを活用し、周知・検討の上、適切な改善に繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別に機会を設けたり、毎月のミーティング時に発言の場を設けている。	定期的に会議を開催しており、職員からの意見・提案を確認している。また、法人の代表へ直接電話ができる仕組みができており、職員の悩み解消へと繋がっている。職員の研修参加や資格取得を支援しており、職員の希望に応じて、スキルアップができる体制を整えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別の意見聴聞機会を設け、職員の環境改善に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時研修を始め、社内研修等で育成を図ると共に、現場での取り組みを重視している。外部研修もあるが、機会も多くは参加が難しい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	賀詞交歓会への参加、介護支援専門員研修等の活動を通じてネットワークの構築を図っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に施設見学をして頂き、雰囲気を感じて頂く機会を設けたり、ご家族やケアマネジャーからの情報収集を行い、信頼関係が築けるよう取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時にご家庭での過ごし方や習慣を伺うと共に、不安点や要望を聞き関係作りに努めている。面会時にもできる限り要望を伺っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人や家族との関係性。状況を把握し、出来る限り本人に合った支援が出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活に近い状態で過ごして頂けるよう家事を一緒に行ったり、季節ごとの行事も利用者と相談しながら「出来ること」を見つけ、行って頂くよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、近況報告書(行事写真同封)を送付したり、面会時や電話で相談させて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会の制限はなく、馴染みの方の面会が続けられるよう支援している。	知人・友人・家族等の訪問は随時受け付けており、馴染みの関係継続に配慮している。また、希望に応じて、個別の外出や地域行事への参加を行い、馴染みの場所での楽しみを支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	談話や共同作業を行う中で、お互いを労わるという良い関係が築けているので継続できるように見守ったり、時には間に入り支援を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要とする利用者様やご家族に対しては、これまでのお付き合いを大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	可能な限り本人の意思を主張できるよう意見を聞いたり、思いを引き出す努力は行っているが、全てを叶えられてはいないと感じている。	契約時に、本人・家族から意向・身体状況・生活歴等を確認すると共に、他事業所や医療機関からの情報提供を受けており、より詳細な情報の把握に努めている。居室担当職員を中心に入居者の意向や状況を把握しており、会議や申し送りを活用しながら職員全員で常に新しい情報が共有できるよう工夫している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に聞き取りやご家族にアンケート用紙に記入して頂き、情報収集を行ったり、入居後にご家族とコミュニケーションを図りながらお聞きしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録や申し送りを行ったり、利用者様個々についてのカンファレンスを開き、意見交換し、現状把握に努めている。		

【千葉県】グループホームふくふく

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・ご家族に意見を伺い、ユニットカンファレンスやミーティング時に意見を出し合い、見直し、現状に即した介護計画となるよう作成している。	本人・家族の意向・ニーズを踏まえた上で、会議にて検討を行い、介護計画を作成している。また、居室担当職員から意見を確認し、現場の目線に沿った介護計画作成に努めている。定期的に目標の達成状況の確認及び評価を行い、必要に応じて介護計画の見直しを図っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個人記録に記入し、申し送りを行い、情報共有すると共に、カンファレンス時に意見を出し合い色々な試みを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	突発的なニーズであっても可能な限り対応できるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市内の子育て支援センターや隣接するグループ施設を訪れ、交流の機会を設けたり、職員とともに外出し、気分転換を図れるよう支援し得ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望に沿ったかかりつけ医があり、定期的に往診を受けると共に、突発的な場合でもスムーズな対応が出来るような体制を作っている(医師・薬剤師とも24時間オンラインで対応)	希望のかかりつけ医への受診が可能となっていると共に、定期的に内科医・歯科医の往診を実施しており、適切な医療受診を支援している。必要に応じて、併設のデイサービスの看護師への相談を行い、適切な健康管理を行っている。また、協力医療機関及び調剤薬局とは24時間連絡が可能となっており、緊急時や困難事例に対しての対策を講じている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設するデイサービスや特養に連絡を取り、体調の変化に対応している。		

【千葉県】グループホームふくふく

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に一緒に伺い介護サマリーなどで情報を提供。また、退院時には看護サマリーを頂き、入院中の状態把握や帰所後の支援の参考にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の思いを尊重し、可能な限りの支援を行い、必要に応じ、かかりつけ医に意見を求め、話し合いのもと、方針を決定するよう努めている。	契約時に、終末期・重度化における方針を家族に説明している。必要時には、家族・医師等の関係者と話し合いを行い、意向や方針を確認している。また、医療機関や他施設への切り替えが必要となった場合には、その都度関係機関と情報交換を行い、円滑に移行できるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを作成し、職員に周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間訓練を重ね、避難方法を全職員が身につけられるよう努力している。地域の方々と共同訓練には至っていないが、利用者様家族より、緊急時の協力参加のご意見を頂戴している。	スプリンクラー・火災報知器・自動通報機等の消防設備を設置していると共に、定期的に避難訓練を実施している。訓練では、消防署立会いの下、夜間想定訓練等を行い、適切な避難方法の確認を行っている。また、訓練の内容を運営推進会議にて報告をし、市や地域住民への理解促進及び協力の呼びかけを行っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴時や排泄時等、プライバシーの確保に注意し、不快な思いをしない声掛けやタイミングに配慮しているが、十分ではないと感じている。	プライバシー保護・接遇・倫理・法令遵守の研修を実施しており、職員へ意義を周知している。また、「指示的な言語を使わず、問いかけをする」と言う行動指針を掲げており、入居者の尊厳に配慮した接遇に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の言動や表情、生活歴から思いをくみ取る努力を行っている。		

【千葉県】グループホームふくふく

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースに合わせて、出来る限り希望に添えるよう努めているが、職員のペースになってしまっていることが多い。全てではないが、利用者様個々の日課(生活ペース)に沿った支援が行えていることもある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的には本人の意思を尊重しているが、必要に応じ、職員が支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の能力に合わせ、準備を手伝って頂いている。職員は、毎食同じ食卓と一緒に食事を摂っている。	入居者の希望や能力に合わせて、食事の準備から片付けまで共同で行っている。献立は、管理栄養士が作成しており、栄養バランスに配慮した食事提供を行っている。また、行事食の提供・外食会の実施等を通じて、食に関する楽しみを提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食、摂取量のチェックを行ったり、その方に合わせた携帯で摂取しやすい工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けにて口腔ケアを促している。自分で行うことが難しい方は職員が介助やチェックを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を用いて排泄パターンを把握できるようにし、必要に応じ、声掛けや誘導を行っている。トイレサインを見逃さないよう努めている。	排泄チェックリストを活用しながら個々の排泄パターンを把握しており、状況・仕草等に応じて、トイレ誘導や声掛けを行い、適切な排泄支援を行っている。必要時には、医師・併設施設の看護師等に協力を仰ぎ、排便コントロール等を行っている。その他にも、食事・水分・運動を工夫し、自然排便を促すよう努めている。	

【千葉県】グループホームふくふく

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックを毎日行い、必要に応じ、かかりつけ医に相談し、その方に合った方法で予防に努めている。ヨーグルト等の摂取と体操を日課とし、体を動かして頂いている。水分摂取量にも気を配っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本、毎日入浴となっているが、体調や要望に合わせて対応。拒否をした場合は無理強いないで、時間を空け、再度声掛けを試みている。入浴表を付け、拒否が多い方でも入浴の間隔が空かないよう注意している。	本人の希望に応じて時間・回数等を柔軟に調整し、適切な入浴機会を設けている。また、必要に応じて、清拭・部分浴・シャワー浴等を実施しており、入居者の清潔保持にも努めている。入浴拒否に対しては、タイミングや日程を調整し、無理強いしないように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人のペースで休息を取って頂けるよう支援している。室温等にも気を配り、眠りやすい環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師・薬剤師に指導やアドバイスを受けたり、相談に乗って頂いている。内服チェック表で内服管理したり、一覧表で全職員が薬の内容を把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に生活面での役割を作っている。外出や季節の行事を実施し、支援している。医師の許可、家族の要望により飲酒も認めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候に応じ、散歩や外出の機会を作り、気分転換を図っている。自宅への一時帰宅や墓参を希望される利用者様や当日の外出希望があるが、家族の協力を得ることが難しかったりと中々、希望を叶えるに至っていない。	日頃から散歩・買い物・ドライブ等を実施しており、戸外に出る機会を設けている。また、施設敷地内には、芝生の庭やウッドデッキがあり、気軽に外の空気を楽しめる環境が整備されている。その他にも外出行事や併設施設との合同行事等が企画・実施されており、入居者の生活の活性化を図っている。	

【千葉県】グループホームふくふく

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブル防止のため、金銭管理は事務所で一括して行っている。外出時等、本人の希望に応じ、使用出来るよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に沿って電話を掛けたり、随時支援を行っているが、家族の事情もあり、毎回希望通りには支援を行えていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度や湿度・音・採光に配慮したり外出(行事)の写真や書道等の作品を掲示し、楽しく過ごして頂けるよう努めている。ユニット毎職員と利用者様で空間作りを行っている。	施設の共有スペースには、椅子・テーブル・ソファ・和室スペース等が設置されており、自由にくつろげる環境整備がなされている。また、季節に合わせて飾り付けを施し、楽しい雰囲気作りもなされている。十分な介助スペースが設けられている他、エレベーターやセンサーチャイム等、入居者の身体状況や安全面に配慮した設備が導入されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	今・和室・ソファ・デッキ等、自由に利用できるスペースを設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時、ご家族にお願いし、家具や衣服・食器類等、使い慣れた物や愛着のある物を用意して頂く事をお願いしている。	入居者・家族の希望に応じて、馴染みの家具等を持ち込む事が可能となっており、居心地良く生活できるよう配慮している。また、テレビの設置・布団を敷く事も可能となっており、入居者一人ひとりの生活歴に合わせた居室作りもなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	キッチンからフロアが見渡せ、利用者様の様子が確認しやすい造りとなっている。テーブルや椅子の配置に気を配り、動線の確保をしている。廊下、トイレ、脱衣所等には手すりを付け、安全に移動が行える。		